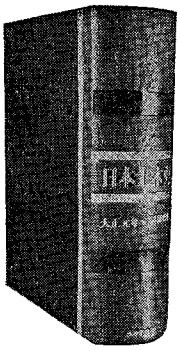


日本土木史（大正元年～昭和 15 年）の発刊

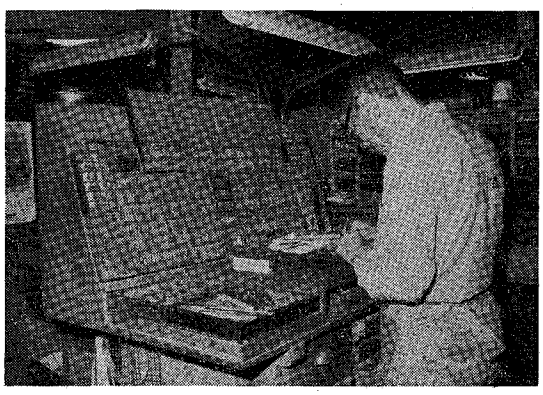
日本土木史編集委員会

土木学会日本土木史編集委員会が企画編集に当たっていた日本土木史（大正元年～昭和 15 年）が，ようやく刊行された。本書は学会の創立 50 周年記念出版の一環として，学会創立の大正初期以来のわが土木界の活躍の跡を記録し後世に残そうと編さん出版された。もっとも今回は昭和 15 年までに区切ってあり，それ以後現在に至るまでの記録は，引続き数年以内にこの委員会で編集準備中である。

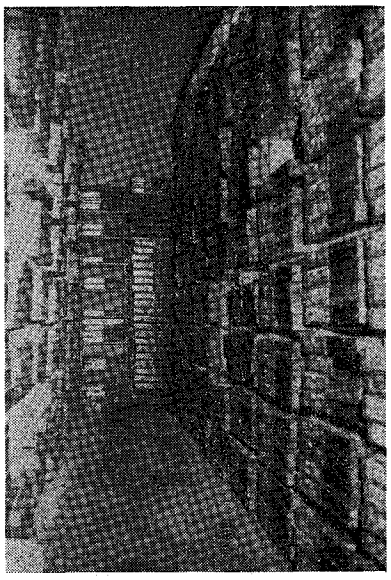
実は，この企画は 10 年以上も前に，学会の 40 周年記念事業として開始されたのであったが，種々の事情で一時中断されていた。以後，委員会の構成も大部分交代し心機一転どうやら完成に漕ぎつけたのである。とはいえ，10 年前に提出されていた原稿もあり，執筆要項なども必ずしも明らかでない点があり，そのままに進行していた仕事ではあり，まとめるに当たっては種々の困難がともなった。どうやら出版の運びに至ったものの，全体としてはかなりの不統一不備のあることを認めないわけにはいかない。昭和 15 年という切りかたも，特に技術史的根拠があるわけではないであろう。編によっては昭和 20 年までさらにその数年後まで記録されているのもある。さらには当然取り上げねばならぬはずの建設業史などが結局間に合わなかったことなど，多くの欠陥がある。これら諸点に関しては委員会幹事として会員ならびに読者諸氏に深くお詫び申し上げ，続いて出版されるはずのつぎの「日本土木史」においてできるだけ補なうことをお約束して，ご了解を得たいと思う。

とはいえ，広汎な土木界のほとんどの分野にわたる公式記録として，大正から昭和にかけての歩みを，本書によって一望できるのであり，少々値は高いが多くの会員が勤務先においてまた書斎に備えて頂くことをわれわれは心から念願する。ページ数は最初の予定をはるかに越えＢ５版で 1770 ページ，400 字詰原稿用紙で約 6000 枚，図 410 点，表 500 点，写真 150 点におよぶぼう大なもので，原稿集め，編集，校正など決して容易な仕事ではなかった。執筆者は約 180 名，それぞれの要望をできるだけ統一した形でまとめるだけでも簡単な作業ではない。用語用字の問題ひとつ取り上げても，現代国語が混乱しているだけに，とくにその表記については苦心したが，はたして多くの人々にご満足頂けるか自信はない。つぎの時代の人々を考え，できるだけ当用漢字，現代かなづかいによったが，年配の方々にはご不満であろうか

写真—1　組版作業



写真—2　印刷をひかえたゲラ箱群



と思う。

もちろん歴史的な漢字などは相当残して使っており，片カナのコンクリートを組み合わせた造字は特別に木版活字をつくったりもした。元植民地での土木工事についてもできるだけ収集したが，文献が現在日本に無かったり，あるいは処分されており十分とはいえないが，これまた貴重な記録である。なおこの場合の地名については当時の呼び名であらわした。それがひとつの歴史的事実と考えられるし，今回の土木史編さん上の便宜上からも都合が良かったためで，他意はない。なお全体を通じて人名の敬称は略し，人名を索引では扱かわなかった。そのひとつの理由は，人物の取り上げかたが編ごとにかなり違うため，索引で人名を探すと不公平が生じてしまうためである。

本書の全体を展望すると，大正初期以来の30年間の，わが土木界の先輩諸兄の奮闘が力強く浮彫りされてくる。関東大震災から経済恐慌，そして世界大戦へと移行するこの時代は，わが土木界にとってもまことに苦難の時期でもあった。今日，われわれは建設ブームの波に乗ってさまざまな偉大な成果をつぎつぎとあげつつある。

しかし，これらの成果も，大正昭和初期を通しての土木技術の蓄積を通してのみはじめて可能であったことが，本書によってよく感知されるであろう。本書の刊行に当たって，あらためて先輩諸兄の業績と苦闘に心からなる感謝の念を捧げたい。

なお，明治以前の日本土木史については，つぎの書があることをお知らせして置こう。

「明治以前日本土木史」土木学会，昭和 11 年

これは田辺朔郎委員長，真田秀吉副委員長のもとに，100 人以上の編集委員により約4ヵ年を経て，有史以来江戸時代末期までの土木史をまとめたもので，多くの古典や古文書を汎く検討した大著である。B 5版 1700ページ余で，現在も，江戸時代以前の土木について調べようとするとき，もっとも権威ある原典として史界でも高く評価されている。古書店では約2万 5000円の値が出ている。

なおこの書を要約し，明治時代についてごく簡単に触れたものに，日本学士会編の「明治前日本土木史」が昭和 31 年に出版されていることを付言して置く。

「明治工業史」土木篇，日本工学会編，昭和4年

前書より早く，工学会では明治工業史編纂委員会は田辺朔郎を委員長とし，明治の工業をいくつかの部門ごとに編さん出版した。土木篇は原稿が関東大震災で焼失するという不幸を経て，どうやら昭和4年に出版された。これまたB 5版 1100ページの大著である。なお明治工業史には別に鉄道篇，建築篇などもある。

少し変わったもので戦時中に土木学会では「本邦土木と外人」という書を昭和 17 年に出版している。明治初期に来日した外人土木技術者の活躍状況が整理されている。

明治までは，このように大著がすでに記されているので，これらと今回の日本土木史（大正元年～昭和15年）をあわせて，どうやら有史以来昭和 15 年までの土木公式記録は揃うことになる。しかし，これらはいわば資料集という性格が強い。特に明治以後については，技術史的な突っ込みが強く要望される。今回の「日本土木史」でも総論に相当する考察が無かったことは，技術史的に見れば最大の欠陥であったといえよう。土木工学が特に総合技術であり，間口の広い分野であること，開放的性格を有していることを考慮すると，それが歴史の波のなかでどのように位置づけられてきたかを考察することの意義は大きい。それは，またこれからの土木界の方向やあるべき姿を正しく捕えるためにも必須のことでありながら，今日まで土木技術史が本格的には土木界で取り上げられていないことは惜しまれる。

「日本土木史」などに記録された“事実”を基に，今後本格的に土木技術史にぶつかる若い人々が出現することを期待してやまない。いうまでもなく，歴史は単なる過去の事実の記録ではなく，明日を展望するためのもっとも有力な糧であるからだ。

（日本土木史編集委員会幹事　**高橋　裕・記**）

ご　案　内

「日本土木史」は，その性質上通常の出版物のように採算ベースに乗せることは困難であることらか，当初から赤字を覚悟でスタートしたものであります。採算にのらない部分は，学会創立 50 周年記念特別会計から補填することとしました。

出版に要した総計費は直接費として約980 万円を要し，1000 部印刷の限定版とした。このうちには寄贈や将来のため残しておくものがあるから，それらを差引くと1部の生産原価は 12000 円となります。

したがって，定価 **12000 円**とし個人会員に限り特価を設けることと致しました。売り切れないうちにお申込み下さいますようご案内申上げます。**<内容見本送呈>**

［編　集　課］